

日時： 2013年7月13日(土曜日)
場所： 渋谷区神宮前2-3-16
建築家会館1階大ホール

参加者： 約60名(一般約20人)

講演要旨

建築は無からの創造のように錯覚している人もいるが、そこには必ず歴史が触媒となっている。都市の構造においても、江戸の街は京都の街の見立て、延暦寺を寛永寺などで構成されている。江戸から東京になり、丸の内周辺の近代建築は背後に超高層という形で近代建築が保存され、再開発されてきた。三菱1号館、明治生命館(三菱2号館の跡地)、丸の内ビル、工業倶楽部、銀行協会など。オーセンティシティを意識した保存からイメージの継承にいたるまで、各プロジェクトで多様な手法が取られてきた。東京の多くの建物が2代目、3代目、4代目、5代目。写真は東京駅周辺の建物でこの20年で再開発されたもの。超高層も含め、首都でこれだけ多くの建物がこのような短期間で再開発されている都市は世界でも珍しい。歌舞伎座の再開発については、保存ということではないかもしれないが、生きた文化財の襲名ともいうべきものか。このような手法も日本ではある。

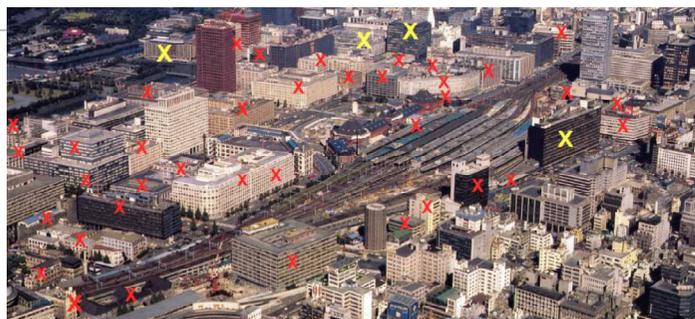
国立競技場のデザイン提案では色々な提案があった。今回はデザイン提案なので、要綱書に示された技術基準は必ずしも審査の対象ではなかった。むしろ、東京オリンピック招致に向けて、東京にどのようなコンテキストを入れるのかということが審査で議論された。当選案のザハ案は、その技術的挑戦課題も含め、丹下が当時日本の技術の粋を集めた建設した代々木体育館へのオマージュとも解釈でき、圧倒的に優れていた。

会場との質疑要旨

一般の人からも含め、会場から多くの質疑が出ました。保存というものを日本でどのように考えるべきかという質問が多く出ました。先生は「これら日本の保存に関連する再開発事例は欧米での保存の概念とは異なる。他方、これが日本の文化だと単純に解釈することも違和感を感じる。都市の文化の中で建物の普遍的な価値は何かという問いかけを常にしていたかなければならない。建物保存と景観保存とは事なる問題。都市のコンテキストの中で、文化をどのように継承していくかがこれからの現代の建築が解いていく課題である」と纏めました。



鈴木博之先生の講演



1970年代中頃の東京駅とその後再開発された建物



新国立競技場 ザハ当選案

東京駅正面広場整備完成予想図



日時： 2013年6月29日(土) 15:00--18:30 会場： JIA館1F 建築家クラブ

参加人数： 40名(部会員含む)

本年度のデザイン部会は「アートと建築」をテーマに連続シンポジウム、見学会などを企画しています。
その第一回として、アーティスト2名、建築家2名によるプレゼンテーションとトークを行いました。

アート表現

*

建築表現



尹熙倉(ゆんひちゃん) アーティスト

多摩美術大学工芸学科准教授。陶による立体、陶粉画



曾我部昌史(そがべまさし) 建築家

神奈川大学工学部建築学科教授。みかんぐみ共同主宰

高浜利也(たかはまとしや) アーティスト

武蔵野美術大学油絵学科教授。版画、インスタレーション



山本想太郎(やまもとそうたろう) 建築家

山本想太郎設計アトリエ主宰。JIAデザイン部会長



OZONEセミナー報告2013年第3回 「すまいに関わる自然エネルギーの実践」 2013年6月8日(土) 於:新宿OZONE

住宅部会では、リビングデザインセンターOZONEと共催で一般市民を対象とした活動を毎月行っています。今年度の「JIA建築家と考える暮らしと住まい」では、エネルギーという社会的関心の高いテーマを取り上げ、住宅との関係について毎回切り口を変えてセミナーを行っていきます。

この第3回では、小規模分散型、エネルギーの地産地消という観点から、暮らしを支える自然エネルギー活用のさまざまな実例と提案を紹介し、私たちにもできる自然エネルギー活用の可能性を探ることをテーマとしました。冒頭、コーディネーターの神田雅子(アーキキャラバン建築設計事務所)から、現在の私達の暮らしは、衣食住もエネルギーも、地域にある恵みを活かして生きる小さな循環ではなく、大きな循環に飲み込まれていることが簡単に語られました。

次に、全国各地の自然エネルギーを取材して雑誌に書いているライターの平山友子さんから、自然エネルギーの概要の説明のあと、地域の自然エネルギーを活かした暮らし方の事例をいくつか紹介してもらいました。本編では、平山さんに聞き手となってもらい、講師の桜井薫さん(レクスタ代表理事)に、手作り太陽電池による発展途上国や被災地支援、また、埼玉県小川町での地域の取組みなど、実践的な取組みをご紹介いただきました。自然エネルギーの活用は目的ではなく、自分達でエネルギーを作ることの先にあるのはどんな暮らしなのかを考えさせる奥深い内容となりました。

記:神田雅子(アーキキャラバン建築設計事務所) 写真撮影:砺波周平



住宅部会主催で、6月15日(土)、街歩き「路地と下町の暮らし(谷中・根津・千駄木)」を開催しました。
参加者は、一般参加11名と住宅部会関係者6名の計17名。

先史時代は海にせり出した岬だった高台にある寺町の「谷中」、根津神社の門前を中心に谷筋の低地に栄えた「根津」、東京大学が近く、川端康成や夏目漱石、森鷗外など多くの文人が居を構えた「千駄木」という、3つの異なるエリアで発展した「谷根千」は、文京区と台東区に位置し、今なお東京の下町としての風情を残す、歴史と情緒が溢れる地域です。

今回は、日暮里駅から少し北上し、江戸時代は風光明媚な場所だった諏訪神社へ。そして最近、景観問題としてスポットのあたる富士見坂(千駄木で建築中のマンションが富士山を隠してしまった)を降り、不忍通りを横切って千駄木の住宅街へと移動。武者小路千家の官休庵、旧安田邸の前を通過、元は個人庭だった須藤公園など、落ち着いた雰囲気の良い閑静な街並でした。

そして昨年竣工した森鷗外記念館から、区境となっていた藍染川の名残が残る「へび道」を通過、隈研吾設計の老人ホームを少し見てから、寺町の谷中へと入りました。数は少なくなっているものの、味わいのある路地と下町の住みは健在。最後に一番賑わいを見せる「谷中銀座」へと入り、そこで街歩きは終了。暑さが厳しい中での開催となりましたが、雨が降らなかったのは幸いです。

3つの異なるエリアを巡ることで、住みや街並みの雰囲気、空間の違いなどを感じてもらい、街並への意識を少し高めてもらえたような気がします。

記：湯浅剛(アトリエ六曜舎)



開催日: 2013年6月26日(水曜日) 18:30~20:30

会場: 建築家会館1階ホール

主催: 関東甲信越支部・JIAトーク実行委員会

協賛: 日新工業株式会社
日本アスファルト防水工業協同組合

概要

毎年、年4回開催している企画の中で、アーキテクト・ガーデン月間に合わせて

第1回目を開催いたしました。

第1回目は、元オリベッティ社の伊藤哲郎氏を講師にお招きして、オリベッティの企画文化戦略とデザインポリシーをテーマに、大変興味深いお話をいただきました。



講師: 伊藤哲郎氏

2013年度の開催は下記の通りです。

第1回: 6月26日(水)「オリベッティの企画文化戦略とデザインポリシー」

講師: 伊藤哲郎氏

第2回: 10月16日(水)

講師: 深澤直人氏(プロダクトデザイナー)

第3回: 11月6日(水)

講師: 星野朝子氏(日産自動車)

第4回: 1月29日(水)

講師: 高野行進氏(ジャズ・ギタリスト)

第1回講演風景



■開催日時: 2013年6月26日(水)19:00-21:00

■会場: レストランよこかわ

当地域会では、11月に海外での例会を企画しており、そのための会員への情報提供と参加者募集のために過去に会員の皆さんが見てきた海外の建築物について講演を行いました。企画段階から、多くの会員の皆さんが海外の建築について興味を持っておられ、研修にも行けれているのでたいへん興味深い場所や建物の情報があつまりましたが、今回は時間の関係もあり、株式会社 河野正博会員、株式会社 三上建築事務所の益子会員の2名に講師をお願いしました。

河野会員は、イタリア・フランスを中心に、ヨーロッパ全体の建築についての講演をいただきました。建築物についての深い考察はもとより、無計画な旅行も愉快で、楽しい講演でした。また、過去の建築物については、スライドを用いてのもでしたので、スライドを切り替える時の操作方法や独特の音に会員の皆さまはなつかしく感じたようです。

三上会員は、ドイツを中心とした講演で、河野会員の視点とは違った講演内容が興味深いものでした。

今回のアーキテクトガーデンは、内容等も顧慮し、会員向けのPRしかしませんでした。たいへん好評で、次回は是非一般の方が積極的に参加していただきたいと考えています。

開催日時: 2013年7月5日18:30~20:30

場所: JIA館1階建築家倶楽部

主催部会: 建築家写真倶楽部

講師: 鈴木正見

聞き手: 兼松紘一郎(JIA)

司会: 藤本幸充(JIA)

参加者数13名

人生の来し方を振り返るとその時その場では一生懸命になっていたけれどもその時には想像だにできなかった自分が今ある。師「村井修」のお弟子さんであり、かつ何度となくインド、ネパールを訪れている鈴木氏の談話を聞いている実感だ。丹下健三、白井晟一作品群の撮影など村井修氏のもっとも活動的であった時期の撮影裏話とインドネパールの宗教や風俗習慣の話が織り交ざれる。一端はスタジオ村井を退職しインド行。帰国するとまたスタジオ村井に再就職の環境が整っている。そうやって今日まで30年間村井氏の片腕となって活躍。今、数多くストックされた写真のアーカイブが問題になっているとのこと。

その後話に出ていたインド、オリッサ州の仏教遺跡(7世紀から)からスライドに入る。

カタック県、緋の織物で有名な村の画像、仏教ばかりでなくトモロコシを立てたようなヒンドゥー教の中世寺院、聖地プリーで行われる祭り。2.7km離れた寺院相互を巨大な山車が往復。無数の人々も数台の山車とともに移動する。イギリス軍の傭兵として名高いネパールのグルカ兵が宗教上、山車に身を投げる人を阻止する。京都祇園祭の山車の解体に立ち会ったことがあるが、聖地プリーの山車の画像はそれに近かった。

前半の講演と後半のスライド解説。ずしりとくる2本立ての映画を見るようであった。

(藤本幸充記)



左: 講師の鈴木正見氏 / 右: 聞き手の兼松氏 (写真: 秋山信行)



アーキテクト・ガーデン2013

講演会・シンポジウム

見学と講演／建築家伊東忠太が東京都慰霊堂に遺したもの

主催
城東地域会

日時:6月29日(土) 13:00-16:30
場所:東京都慰霊堂、復興記念館
(墨田区横網2-3-2)

今年は何東大震災から90年の節目の年にあたります。また、私たちは東日本大震災も経験し、防災や復興への関心は高まりました。アーキテクトガーデンならびに9月に開催される首都防災ウィーク関連イベントとして、城東地域会では、6月と9月に連続シンポジウム「記憶をつなぐ、いま語り継ぐこと」の開催を企画しました。

6月のシンポジウムは「建築家伊東忠太が東京都慰霊堂に遺したもの」というテーマで、村松伸先生(総合地球環境学研究所教授、東京大学教授)高野宏康先生(復興記念館調査研究員)を講師にお迎えし、6月29日に開催されました。関東大震災で約3万8千人もの犠牲者がでた旧陸軍被服廠跡地に建つ、建築家伊東忠太の設計と言われる東京都慰霊堂の建設の経緯から現在に至るまでを振り返り、そこに収蔵される資料を紹介し、いま私たちが直面している東日本大震災復興のさまざまな問題までシンポジウムの中で考えていきたいという思いがあります。

講演に先立つ見学会では、約70名の参加者が二手にわかれ、東京都慰霊堂と復興記念館の二つの施設を見学しました。展示資料の解説と通常は見学できない納骨室等の見学という貴重な体験を得ることができました。

基調講演の中で村松伸先生は、東京都慰霊堂の建物の特色、竣工までの経緯、伊東忠太の人物像、この建物が出現した理由について説明されましたが、何よりも伊東忠太が震災復興の中でどういう気持でこの建物をつくったか。この建物はなんであったかを私たちが考えることが必要であると話されました。続いて高野宏康先生は、東京都慰霊堂と復興記念館の成立から現在までの変遷と収蔵庫の保管資料から関東大震災の記憶の継承における両施設の特徴と意義について説明された。そして、震災の記憶を未来に伝えていくために、建物、場所、資料の力について話されました。

日頃はなかなか足の向かない建物ですが、今回の企画は一般紙でも紹介され70名を越える人たちが参加しました。私たちはこの地にこの建築が建つ意味を考えること、その中には膨大な資料があることを私たちは再認識すること、そして、東日本大震災の復興についても歴史から多くのことを学ぶ必要があると考えます。

9月のシンポジウムでは、米山勇先生(江戸博研究員)岡本哲志先生(法政大学教授)を講師にお迎えし、「関東大震災復興から学ぶまちづくりについて」というテーマでお話をお聴きする予定です。

日時：2013年6月7日（金）18:00～20:30

場所：JIA館1階・建築家クラブ

プログラム；

ご挨拶（上浪寛支部長）

JIAのこれから（芦原太郎JIA会長）

JIAガイダンス（西勝郁郎本部総務委員長）

JIAの概要紹介、建築家憲章、倫理規程、行動規範等の概要説明

各委員会、部会紹介

懇談会（軽食・飲み物あり）

自己紹介、意見交換など

閉会のあいさつ（左知子支部総務委員長）

配布資料；

JIA組織表（2011年版）

建築家憲章、倫理規程、行動規範

委員会、部会紹介書類（支部総会資料抜粋版）

最新アニュアル号

その他各委員会・部会提供資料

参加人数；

新会員 6名

委員会・部会から 10名

会長、支部長、本部総務委員長

総務委員 9名

所感；

- ・新会員への案内が遅れたため、十分告知が行き渡らず、参加人数が伸び悩んだ。来年はできるだけ早めの告知が望まれる。
- ・新会員はできるだけ聴いて欲しい内容なので、年に1回ではなく複数回の開催も検討すべきとの声もあった



■ 建築の設計監理を生業とする者にとって、常識のように語られる建築関係団体の差異。そして、それを語る多くの方達が感じている、市民には通じないその常識。

市民が、地域でのまちづくりを付託する、信頼する建築家やその団体とはどのようなものなのだろうか。

■ 東京には建築家協会(JIA)の地域会は14ある。全てが単独区の地域会ではないが、在住や在勤のJIA会員と会友たちでその地域の状況に合わせ独自の活動を展開している。

その一方で、事務所協会や建築士会に所属する会員が地域で支部を設立し、同様に地域での活動を展開している。地域でのまちづくり活動という視点でとらえれば、これら3会が目指す「まち」の姿には違いがないと言っても否定されまい。さらに市民にとって望ましい街の有り様を考えた時、3会が協力して活動することを否定する方はいないであろう。

既に東京のいくつかの地域会は建築会として、地域でのまちづくり活動の専門家の団体として3会の連携を始めた。そして、また別のいくつかの地域会はその準備に入っている。

■ 建築の専門家として、地域の方達に信頼される活動を主眼に、これからのまちづくり活動での3会の連携や行政との協働について考えたい。(案内文より)

■ 日 時: 2013年7月20日(土) 15:00 ~ 18:30

■ 場 所: JIA館1階 建築家クラブ

■ 主 催: 日本建築家協会関東甲信越支部 都市デザイン部会

■ 参加者数: 30名 (JIA会員 15名・一般・学生 15名)

● 第一部 地域会からの報告 15:00 ~ 16:00

15:00 ~ : 東京の地域会からの報告

(渋谷地域会・城北地域会・文京地域会・文京建築会ユース)

● 第二部 円卓サロンセミナー 16:15 ~ 18:30

ゲストショートレクチャー 16:15 ~ 17:00

杉並のまちづくり 杉並区都市整備部長 大塚 敏之 氏

杉並建築会のこれから 杉並建築会 事務局長 松枝 廣太郎 氏

杉並建築会 役員 可児 才介 氏

第一部の報告をふまえた意見交換 17:00 ~ 18:30



日時：2013年5月31日（金）

会場：建築家会館1階ホール

18:00～19:00 2012年度日本建築大賞受賞記念講演会

講師：陶器浩一氏

タイトル：「築くということ—笑顔が集まる”みんなの場所”—」

16:00-17:30 2012年度日本建築大賞、日本建築家協会賞、新人賞、25年賞、環境建築賞の表彰式が行われ、同時並行で、受賞作品の展示がJIA館1階建築家クラブで開催された。

引き続き、

18:00-19:00に、2012年度大賞受賞者の陶器浩一氏の受賞記念講演会「築くということ—笑顔が集まる”みんなの場所”—」が行われた初めての、JIA主催の大賞受賞記念講演会だった。

受賞作品「竹の会所」は、東日本大震災の津波被災地に建てられた、集会所であり、ボランティアに駆け付けた学生たちと、地元の人々との交流の結晶といえる。

陶器氏の講演は、震災後の活動の始まりから、材料の選定や構法の検討、さらに建設現場での苦労、また、建てて終わりではない、竣工後の今後の課題など多岐に及び、審査委員の斎藤公男氏の講評にあるように、その全体を通して「“築くる”という建築の原点がここにある。」ことを感じさせるものだった。

アーキテクトガーデン2013群馬地域会企画を6月15日に開催しました。昨年からの連続企画で今回が第3回となります。

第一部では映像作家の佐野文男氏を講師にお招きし、～ブルーノ・タウトと東山魁夷の旅を通して～と題した講演会を開催しました。

1933年にタウトが来日し、同年に魁夷はドイツを訪れます。接点の無い二人の映像を追っていた映像作家の佐野文男さんは二人の中に共通するものを感じ、建築家と日本画家という異なる道を歩んだ二人の表現・生き方を比較しながら、そこに見えてくるものは何かといったたいへん興味深い視点からのお話しをいただきました。

第二部では麻布笄町にあったアントニン・レーモンド邸の写しである旧井上房一郎邸の見学会を群馬地域会会員の解説とともに実施しました。

アーキテクト・ガーデン企画としてのアピール、早めの広報活動が功を奏し、昨年同様に多くの参加をいただき、地方紙面にも記事として取り上げられました。

またタイムリーにJIA声明文「建築物の長寿命化と文化資産化を目指す」を会場で発信出来たことは意義深い事でした。



講演会



佐野文男氏
映像作家・ディレクター

上毛新聞H25.6.16掲載記事

- 開催日時 2013年6月15日(土)
14:00 ~ 17:00
- 会場 高崎市南公民館, 旧井上房一郎邸
- 共催 ブルーノ・タウトの会
日本建築学会関東支部群馬支所
- 協力 群馬音楽センターを愛する会
NPO法人高崎哲学堂
- 後援 群馬県・高崎市・前橋市
- 参加者 45名(内・一般 30名)



旧井上邸見学会

- 開催年月日 平成25年5月25日～6月22日
- 開催場所 新宿プロムナードギャラリー
- 参加人数 9名 21作品
- 概要

新宿駅南口から都庁へつながる地下道の「新宿プロムナードギャラリー」をお借りして毎年ミケランジェロ会の絵や写真を展示している。

今年度もアーキテクト・ガーデンの一環として5月から6月にかけての約一か月の展示を行った。

公共通路に添った展示スペースであり、多くの一般の方の目に触れて頂いた。



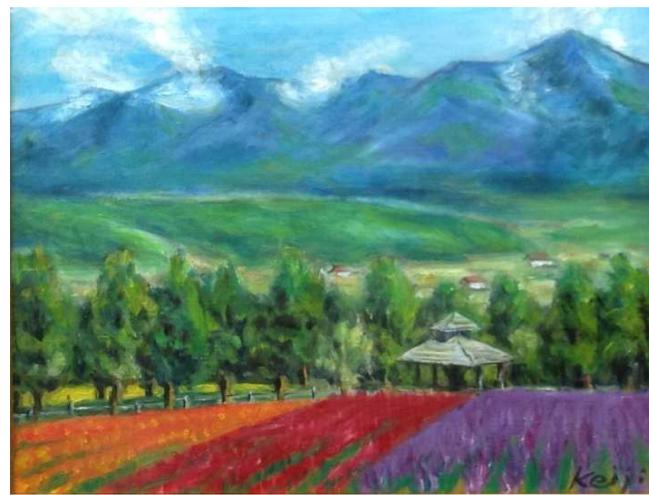
府中でのスケッチ

亀井天元



春爛漫

半谷良男



十勝山岳遠望

田中桂治



熊本城

阿部一尋



アーキテツ・ガーデン

展示・ワークショップ

子ども空間ワークショップ in 横浜開港祭2013

主催
神奈川地域会

6月8日 (sat.) , 9日 (sun.) の2日間、横浜開港祭2013にて「子ども空間ワークショップ」を開催しました。会場は臨港パークの潮入の池周辺の芝生の上、みなとみらいの高層群を背景に梅雨の晴れ間に潮風を感じながらの絶好のロケーションで行われました。

総勢54名 (述べ) のスタッフのご協力の下 (神奈川の正会員15名、法人協力会員7名、都内の地域会4名、その他大学生及び講師陣等々28名)、2日間で130名を超える子供達とその親御さん方がファシリテーターと共に、デザインや力学を意識しながら建築やまちづくりを楽しんで体感していただきました。

多くの人出が予想された為、事前予約は取らず現地で随時受付して小グループごとにスタートしました。日頃の小学校で行っているのワークショップとは一味違って、その日会った見知らぬ子供同士、親同士もが協力し合いながら達成感を共有できたことです。それは正に災害時の共助へと繋がっていくでしょう。



◆早稲田大学キャンパスでは、各時代の社会的背景をも反映する優れた建物が、改修により長く使い続けられています。今回、内藤多仲自身の構造設計による日本最初の壁式鉄筋コンクリート造の自邸や佐藤功一・佐藤武夫設計の大隈講堂、今井兼次設計による會津八一記念博物館、演劇博物館、そして村野藤吾設計の文学部キャンパスの見学を行いました。旧内藤邸は、早稲田大学の山田教授に建物について資料を元に説明をいただきました。3月11日の震災で室内の重い家具が数センチ移動した痕跡が見られるが、躯体コンクリートにクラックは全く見られないとのお話であった。

◆参加者：合計27名(委員を含む)

見学建物

1. 大隈講堂

床面積：3709.65㎡
構造：SRC造、RC造
設計：佐藤功一、佐藤武夫
構造設計：内藤多仲
竣工：1927年
改修：2006.6～2007.9
・2007年に重要文化財に指定

2. 演劇博物館

構造：W造、設計：今井兼次
竣工：1928年
・16世紀イギリスの劇場
「フォーチュン座」を模している。

3. 會津八一記念博物館

構造：RC造、設計：今井兼次
改修：古谷誠章
竣工：1925年
・現在早稲田大学で2番目に古い建物で、今井兼次のデビューの作。

4. 旧内藤邸

・内藤多仲は東京タワーの設計者でもあり、その自邸は関東大震災後、耐震・耐火に配慮した模範住宅を意図して建てられた。
床面積：1F146.54㎡、2F127.78㎡、PH9.87㎡、計284.19㎡
構造：RC造
設計：木子七郎(協力：今井兼次)
構造設計：内藤多仲
改修：鈴木恂
竣工：1926年(大正15年)



旧内藤邸内部



文学部建替後の高層棟と
既存の低層棟(手前側)



大隈講堂内部



演劇博物館



會津八一記念博物館



旧内藤邸

- 日時 : 2013年7月5日(金) 16:30~18:00
- 会場 : 八千代銀行本店
- 講師 : 八千代銀行総務部 管財課長 西澤様、石本建築事務所 プロジェクト推進室 設計・監理 部長 小林様
- 主催 : 日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部 情報開発部会
- 参加者 : 14名

地域住民や中小規模事業者と密接に関わりをもつ地域銀行として、本店建て替えの機会を「環境配慮型オフィスへの確信」と捉え、省CO2モデルを実現するとともに、地域住民や中小規模事業者に対して省CO2意識の積極的な働き掛けを行っている事例です。

中規模のオフィスビルにガラスダブルスキン等による外皮負荷の削減、太陽光発電やナイトパーズ等の自然エネルギー利用、BRMS、LED等高効率照明など、多様な省CO2技術を導入しています。

地域銀行としての強みを活かした環境コミュニケーションサイクルの実現を目指しており、本店ロビーでは省CO2技術に関する情報発信やエコファンド等の金融商品提供などに取り組んでいます。

省エネの新技术だけでなく、沢山の工夫を凝らした建築でした。竣工後の状況もお聴きすることができ、大変有意義な見学会でした。

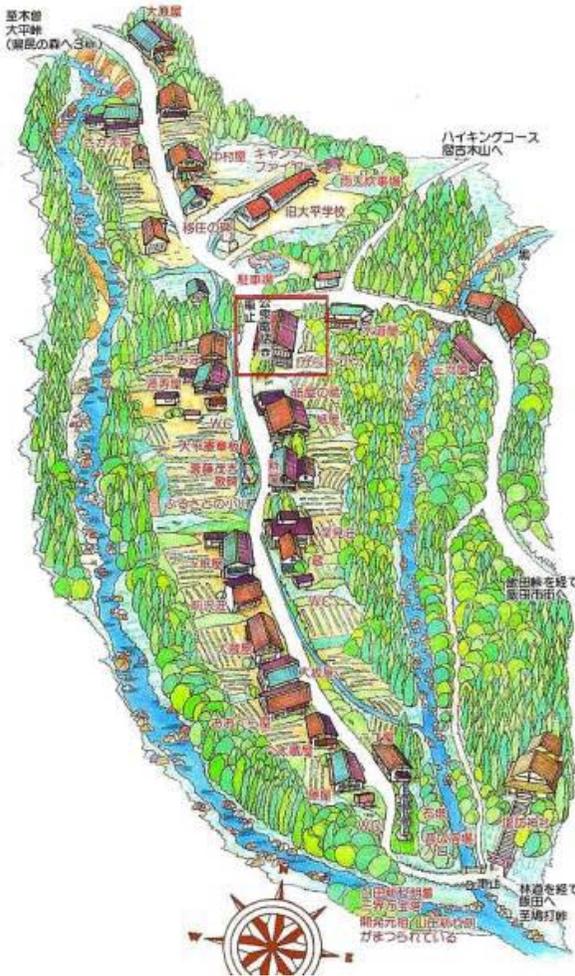


日時：6月7日(金)～8日(土)
スケジュール：6月7日 景観懇話会
6月8日 ウォッチング
会場：長野県飯田市大平宿
参加者：正会員5名

◆大平宿は、中山道と伊那街道を結ぶ大平街道のほぼ中間地点に位置し、標高1150mの大平高原と呼ばれる山中の炭焼きを生業とした山村集落です。江戸時代には宿場町として栄えていましたが、昭和45年に廃村となり住民は集団移住しました。その後、大平宿をのこす会が発足し、建築家の吉田桂二氏が修景や建物の再生を手掛けるなどで、江戸時代の趣を残す美しい佇まいが残されています。

7日は古民家の囲炉裏端で、山村や街道文化についての懇話会を、8日は街並みや古民家をウォッチングしました。新緑の中で、古民家での生活体験を通して山村や景観について考えるプログラムでした。

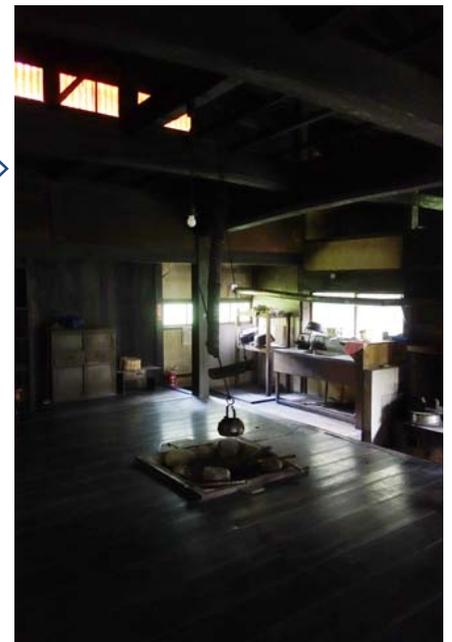
〈大平宿 地図〉



〈景観〉



〈古民家〉



〈囲炉裏を囲む〉



開催日：2013年6月15日(土)
会場：長野県軽井沢町 千ヶ滝別荘地
参加者：正会員14名、一般8名 合計22名
講師：香山壽夫氏

◆2012年に開催したJIA長野県クラブ主催「第20回文化講演会」で香山壽夫先生をお招きしご講演いただきました。その際、軽井沢町に別荘があるとの事で、見学をお願いしこの度のプログラムとなり、ご自身の別荘の見学と周辺に設計した別荘をご案内していただきました。行く先々で質問攻めにあいながらも丁寧にお話して下さる素晴らしいお人柄に接し、参加者は皆大満足の日でした。またこの日は同じく軽井沢に別荘がある野生司義光氏もご参加下さり、終了後 野生司氏の別荘も見学させていただきました。



開催日：2013年6月28日(金)
 会場：長野県中野市と下高井郡木島平村
 参加者：正会員14名、協力会員6名、一般8名 合計28名
 講師：県庁林務部(千代様、山崎様) 北信森林組合(田中様)
 瑞穂木材株式会社 宮崎様

◆ 地域材フィールドワークとは、ほんの少し前は当たり前だった近くの山の木での家づくりが森林県でもある長野県でも難しい理由は何か。机上の話合いではなく実際に現地に行って学ぶ機会として長野県全域を回る勉強会です。
 第1回は南信州、第2回は木曽、第3回は東信、今回第4回目の舞台は北信です。
 北信州森林組合の山の間伐を見学し、瑞穂木材株式会社で製材所を見学、北信合同庁舎に移動し、県庁林務部の担当者から林業の現状について等お話していただいた。



☆ 中野市の山で北信州森林組合の間伐見学



☆ 法人協力会員でもある瑞穂木材(株)の製材所を見学



開催日 : 2013年6月29日(土) 9:30~14:30 参加者 32名で実施されました。大規模な再開発が進行中の中野北口に進出した2大学をまとめて見学する事により、再開発マスタープランとの関わりや大学の要望の違い、そして設計の回答などを設計者の詳しい説明とともに見学しました。

見学建物 : 午前 : 「明治大学中野キャンパス」 設計 : 三菱地所設計 施工 : 清水建設
 午後 : 「帝京平成大学中野キャンパス」 設計 : 日本設計 施工 : 大林組
 「早稲田大学中野国際コミュニティプラザ」の計画説明 設計 : 石本建築事務所



全景 : 明治大学 (中央) 帝京平成大学 (右) 事務所ビル (左)



明治大学 エントランス前



明治大学 エントランス



帝京平成大学 外観



帝京平成大学 エントランス大階段



帝京平成大学 中庭

実施日：2013年 6月22日(土)

再開発が進む丸の内ですが、昭和30年～40年代に竣工したビルがまだまだ残っています。そのようなビルを巡り、昭和という時代を感じる床・石貼、手摺や金物、照明器具・・・を探し、その中にきらりと光る職人の技を見つける街歩きを行いました。

解説はJIA千代田地域会会員だけでなく矢橋大理石と菊川工業の方にもお願いしました。



- 開催日時：2013年7月20日（土）9：30-16：00
- 見学先：聖ヨハネ教会、小野口邸の庭園・蔵、西根地区集落 他
- 参加費：2,000円（入館料、食事代別）

— 7月20日に行われた「大谷石建築の見学会」の報告—

一般の参加者が13名、会員が5名それに事務局が1名の総勢19名の参加者による見学会でした。それ程の炎天下にもならず、気持ちのよい見学会となりました。一般参加者は学生や教職に携わる方、文化財保存のプロの方や大谷石建築のファン等多彩な方々でした。

JR宇都宮駅を9時30分にスタートし、ガーデナーの影響を受けた上林啓吉作の大谷石貼りの教会「聖ヨハネ教会」、大谷地区の旧家「小野口邸」で平安から江戸・明治までの文化財や大谷石建築を見学し、道の駅でうまい蕎麦に舌鼓を打ち、ミッドタウンにも出荷している竹林の「若山農場」を見て大谷石の通りが残る「西根地区」、復活した「大谷資料館」等を見学し予定通り午後4時過ぎに見学会は終了いたしました。大谷石建築だけでなく多様な内容と会員の熱心な説明により好評を得た有意義な見学会でした。



文－佐藤公紀 写真－武井貴志

- 開催年月日 平成25年 6月 15日 14時00分～16時30分
- 開催場所 旭硝子AGC studio (東京都中央区京橋2-5-18京橋創生館)
- 後援 東京都消費生活総合センター
- 協賛 NPO建築家教育推進機構(Ustreamにて、配信予定)
- 参加人数 41名(セミナー)、4名(相談会)
- 概要
 - ・快適に住みやすく豊かな生活を送れる住まいを得るためには、十分な準備と取得後の維持管理が必要である。また土地選定・契約等の手続き、プラン・建材の検討、建築士・工事業者の選択、維持管理の仕方等々、事前に知っていれば多くのトラブルは防げる。
以上の点をふまえ、
「住まいを建てる、購入する、リフォームを考えた時の事前相談のすすめ」をメインテーマとした、セミナーを開催した。
 - ・3部構成とし、第1部では相談窓口の現状について報告した。講師は、比留川恵子氏(東京都消費生活総合センター相談員)、尾崎英二氏(JIA首都圏建築相談室相談員)であった。
第2部では、「まずは相談を!! トラブルを未然に防ぐために」をテーマに事例の紹介と解説を行なった。講師は、阿部一尋氏(JIA首都圏建築相談室相談員)、米田耕司氏(JIA首都圏建築相談室相談員)であった。なお、福富啓爾氏(JIA首都圏建築相談室相談員)がコメンテーターを務めた。
第3部は、質疑応答の時間とし、数多くの質疑応答がなされた。
 - ・セミナー終了後、16時30分～17時30分にかけて、会場にて相談会を行なった。参加人数は予約2名、当日申し込み2名の計4名であった。



会場全体写真



向かって左から比留川氏、尾崎氏



山本彬喜委員長挨拶



向かって左から岡本寛氏(司会)、福富氏、米田氏、阿部氏